
線香花火

桜桃

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

線香花火

【Nコード】

N0797M

【作者名】

桜桃

【あらすじ】

線香花火をしている新一と蘭。
2人はある勝負をします。
どちらが勝つのでしょうか！？

(前書き)

夏といえば花火!!
って感じでかきました♪
見てください☆

バチバチバチ・・・

「ね、新一、あと花火どれくらい？」

「あー？んと、6本。」

「6本かあ。」

「でも、線香花火が残ってるぜ？」

「ほんとー？やった♪」

バチバチバチ・・・

「久しぶりよね。新一と花火するの。」

「ああ。最後にやったのはコナンの頃じゃねえ？」

「ちがうよ。『新一』とやった花火の最後。」

「じゃ、小学生以来だな。」

「へー、そんなに長くやってなかったんだ。」

「花火大会なら行ったけどな。毎年。」

「うん。」

2人は花火を見てお互いを見て、微笑んでいる。

ここに園子や哀がいたら、さぞかし冷やかされていたことだろう。

「あとは、線香花火か。」

「やったー！線香花火♪」

「お前、本当線香花火好きだよな。」

「うん。だって、小さいけど必死に力をだして輝いてるじゃない？」

同じ理屈で、蛍も好きなんだあ。」

「そっか。」

「線香花火やろう？」

「ああ！」

蘭が線香花火に日をつけようとした。

「ちょっとまって。」

「え？」

新一が呼び止める。

「な、勝負。しねえ？」

「勝負？」

「ああ。線香花火を先に落とした奴が、今日と明日。勝ったものの言うことをなんでも聞く。」

ってどうだ？」

「いいわよ！私、負けないから！」

「よし。始めるぞ。」

せーのを合図に火をつける。

バチバチバチ・・・

「あつ。」

先に落ちたのは・
・
・

蘭だった。

「よっしゃ。じゃ、蘭さん？」

「とりあえず今日の命令をしたがってほしいんですけど？」

「なによ。」

「んゝ・・・ま、今日は泊まっていっていただくので。」

「え!？」

「いやなのかよ。」

「そうじゃなくて、たったそれだけでいいの？」

「は？」

「泊まるってことは、ご飯作れってことでしょ？
それだけって、新一、今日は優しいね？」

「そんなことだろうと思ったぜ・・・」

「え？ちがうの？じゃ、マッサージとか？
あ、本を読んであげるとか？
意外と子供だね、新一。」

「俺で遊ぶな。」

「遊んでないよ？
あ、もしかして違った？
じゃあ・・・」

「まったまった。

お前、まったくわかってねえな。

俺んちに泊まるっつーことは、

こういうことだよ。」

いきなり新一にキスされてしまった。

蘭は、戸惑う。

そんなのをお構いなしに新一は家へと蘭をお姫様抱っこで

連れて行く。

男心がわからない。鈍鈍蘭ちゃんは、

このあと思いつきり思い知らされたのである。

新一を遊んだ罰はとーっても大きいのだと。

(後書き)

今日、線香花火をしていて、
ふと、お話がいふかきました^^

はっきり言うと、

とっさの思いつき小説です。〈笑〉

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0797m/>

線香花火

2010年10月12日04時48分発行